

社説

iki shinpou

今年で17回目の開催となる本市主催の「森林(もり)の集い」が「文化の日」の3日、石田町、筒城浜ふれあいセンター・多目的広場で開かれ、市内全小学校から参加した児童と保護者らに、筒城・吉田・勝本・郷ノ浦の緑の少年団の団員たちが加わり、抵抗性クロマツを記念植樹などをして緑の大切さについて学んだ。

「森林のつどい」開催

この集いは、世界的な規模で森林の荒廃が進み、水源のかん養▽大気浄化▽安らぎ、癒しの時や場を人々に与える森林を守り育てようという目的で開催され、緑化推進運動の一環として行われた今回の集いには約3200人が参加し、高学年を中心に参加した渡良小学校の緑の少年団のリーダー・徳田拓実くん(6年生)は植樹の感想を「初めてだったけど、意外と簡単に植えることが出来て楽しかった。僕

たちがマツを植樹することで、地球温暖化の防止に少しでも役立てればともうれしうなと話してくれた。今年も夏の暑さは厳しく、亜熱帯から熱帯になったのではと思いたくなるような状態で、自然災害が多発、山の樹木は自然災害に加え、大陸からの酸性雨、病害虫などの影響で枯れたマツも多いのではないかと、木々の手入れも高年齢が進み、担い手不足により、以前のように行き届かないというところもあろうし、場所によっては、かなり荒れしまし危険な状態のところもあると聞く。

以前読んだ本に、「森林が育ち栄えなければならぬ。地球の砂漠化が国連の調査によると、毎年6万平方キロメートル進んでいるという報告など耳にすると、森林の減少が必ずしも砂漠化の原因にはならぬとされていても、先に紹介した一節が妙に実感されるようにも思うが、例えば外出する際はマイ箸を持ち歩き、ごく一般的な木製の割り箸は使わない、もらわないなど、の取り組みを個人レベルでもしっかりと実践しなければと痛感する。

「私が変われば全てが変わる」という言葉があるが、マイ箸を持ち歩き、外食の際には必ずそれを使う、木製の割り箸は使わないなど、本当に実践すれば、これは大きな変化で、こんな小さな変化でも、自然環境に對して大きな貢献でもある。チャレンジとしても、それぞれに取り組みたい。

◎忘明寄付 (敬称略)
▽郷ノ浦町渡良西触、呼子(亡夫・靖)・市社協
▽浦事業所、紺屋町公民館、同老人会へ
▽郷ノ浦町本村触、松永徳子(亡夫・忠)・市社協
▽郷ノ浦町西触、植村英生館、同老人クラブへ
▽勝本町本宮南触、井上和子(亡夫・央)・市社協
▽本事業所、本宮南触公民館、同老人クラブへ
▽勝本町西戸触、植村英生館、同老人クラブへ
▽事業所、西戸触公民館、同寿会、老人保健施設光風へ

◎日曜営業
ガソリンスタンド(18日)
▽郷ノ浦町▽辻川石油▽永富石油
▽勝本町▽村川石油▽江見石油
▽芦辺町▽中野石油▽市山石油
▽石田町▽江口石油

沓岐高校(野中光治校長、561人)恒例の沓岐1周駅伝大会が1日、女子7区間、男子10区間のクラスタ対抗で開かれ、1~3年生各5クラス、東アジア歴史・中国語コース、職員各1クラスの合計17チームが、約40・9キロのコースで健闘を競い合った。

今年で59回目の大会は午前9時、郷ノ浦町、大谷グラウンド前をスタート、激しいレース展開を制し、男女総合で1年2組が2時間56分50秒の記録で優勝した。準優勝は2年4組、3位2年5組。区間新記録が▽9区・1年3組、堤綾平君▽10区・同、今西菜月さん▽14区・1年1組、中上葵さんの3人が大会新記録で走り、2区・3年3組、雨海光毅君が3年連続で区間賞を取った。

女子総合では1年2組が50分13秒で優勝。準優勝は1年1組、3位2年1組。同男子の優勝は2時間5分43秒で2年4組、準優勝は2年5組、3位1年2組。区間賞は次の通り。
①2・0区 2年1組・石橋愛奈7分38秒
②2・3区 3年3組・雨海光毅8分24秒
③1・3区 1年1組・米倉映希5分0秒
④4・0区 2年5組・豊永恭平12分58秒
⑤2・6区 3年2組・品川泰斗10分26秒
⑥2・4区 1年2組・吉田大哲8分50秒
⑦1・3区 1年2組・城成亜耶3分41秒
⑧2・5区 1年1組・山崎悠太郎7分49秒

また、地球上に住み続けたいと願うのであれば、この言葉を肝(きも)に銘(めい)記(き)しなければならぬ。人間は木を必要としているということがあるが、水を必要としているというところも同じように、人々の常識の一部とならなくてはならない。森林は地球を覆う皮膚、ひふは、地球を覆って保護するだけなく、生命力を透過させる。この地球の生命にとって、樹木ほど大切なものはないとあった。

地球の砂漠化が国連の調査によると、毎年6万平方キロメートル進んでいるという報告など耳にすると、森林の減少が必ずしも砂漠化の原因にはならぬとされていても、先に紹介した一節が妙に実感されるようにも思うが、例えば外出する際はマイ箸を持ち歩き、ごく一般的な木製の割り箸は使わない、もらわないなど、の取り組みを個人レベルでもしっかりと実践しなければと痛感する。

トカウト210で勝本が優勝した。準優勝・鯨伏、3位・那珂、石田。男子は石田が優勝した。
一方、少年軟式野球大会は旧那賀中学校グラウンドで開かれ、市内10チームが出場して、冬を思わせる冷たい風がグラウンドに吹き付ける中、どのゲームでも選手たちの寒さをものともしない熱いプレーが輝いていた。
試合は、那賀クラブと八幡クラブが勝ち進み決勝で対戦。1-0の接戦をものにした那賀が優勝し、市内10チームの頂点に立った。準優勝・八幡、3位・豊科、霞翠。

●おこやみ
▽大島清野さん(87) 渡良浦
▽竹原貴昭さん(24) 片原触
▽篠崎光さん(87) 本村触
▽平田淳さん(69) 郷ノ浦
▽山内フジヨ(103) 牛方触
▽勝本町】
▽竹原福徳さん(72) 立石南触
▽吉田龍清さん(12) 坂本触

男女総合で1年2組が優勝
雨海光毅君が3年連続区間1位
沓岐高校第59回沓岐一周駅伝



大谷グラウンド前のスタート

野球は女子勝本、男子石田がV
JAフェスタ・グリーンカップ
市農協の第26回JAフェスタが10日と11日の両日、芦辺町国分、沓岐家畜市場で開かれ、女子は決勝戦で勝本クラブと鯨伏クラブが対戦、セツフェスタ恒例のジュニアバレーボール大会とジュニア野球大会のグリーンカップが、同フェスタと並行して開かれ、熱戦が展開された。

バレーは女子勝本、男子石田がV
JAフェスタ・グリーンカップ
レオボールナンバー1を目指した好ゲームが繰り広げられ、女子は決勝戦で勝本クラブと鯨伏クラブが対戦、セツフェスタ恒例のジュニアバレーボール大会とジュニア野球大会のグリーンカップが、同フェスタと並行して開かれ、熱戦が展開された。

《エッセイ》
おつきさま
11月28日は、満月です。古事記では、イザナギの尊が禊(みそぎ)ばらいの際に、左目を洗いアマテラスの尊、右目を洗いツキヨミの尊を産み出されたこと云われ、アマテラスは「太陽神」、ツキヨミは「月の神」として、光かぐわしい神と云われています。
月と言えは、沓岐には全国でも有名な「月讀神社」が祀られ、多くの方が参拝にお見えになられていま

今年も沓岐大いに活躍！
長崎ふるさと祭 in 関西
関西沓岐の会副会長 目良恒郎



関西沓岐の会コーナー

去る11月3日、今年で4回目となる関西大阪長崎県人会主催による「長崎ふるさと祭 in 関西」が大阪旭区の淀川河川敷公園で開催され、11団体900人が参加した。
我が関西沓岐の会(立石英隆会長)は役員がそれぞれ貴重衣を着用し、3つのテントで物産品の販売、沓岐市観光協会から提供されたサザエの壺焼き、勝本朝市から仕入れた干物、沓岐酒造組合から七蔵の焼酎の試飲、沓岐ゆかりの子供限定の凧作り教室を実施、又沓岐のパンプレット等を400セット用意し会場に配布した。サザエ、干物を焼く匂いが会場に漂い、だすとたちまち長蛇の列が出来、わずか1時間余り品切れとなり、焼酎の試飲も何度も並んで全銘柄を呑み比べる人も居られ、毎回の事ながら売ってこれと言われる人も多く、今年も七蔵から仕入れた大阪で販売している若い理事が注文を受



サザエの壺焼きなど沓岐の名産品に並ぶ来場者

の理事の娘さん二人が所属するダンス教室は、若い躍動美溢れるダンスを披露し、何度もアンコールの声を受けていた。
最後のイベントは各会対抗の玉入れ競争で関西、東海それぞれ沓岐チームが勝ち進み、東海は3位、関西は決勝で5回もの接戦の末、惜しくも1個の差で優勝を逃した。参加者は、ふるさとを運ぶと同じ長崎県出身であり、初対面ながら旧知の友のようにそれぞれの方で親しく話しかけるなどの光景があちこちに見られ、秋の好天気のおかげでゆったり流れる淀川の景色の中、有意義な一刻を過ごせた催しであった。
今年も動員数、活動面も一番目立っており、今後も沓岐からの協力、会員の協力、また東海沓岐の会との日頃よりの友好、すべてがふるさと沓岐を思う心である。私達に出来る事は、沓岐を宣伝し少しでも沓岐に行き見ようと思う人達を増やすことであり、又物産品を取り寄せてくれれば少しでも活性化になるのではと思いである。今後とも会員一同、機会あるごとに沓岐の宣伝隊となり微力ながらふるさと沓岐に恩返し出来ればと思う。